

日本認知症官民協議会
認知症バリアフリーWG 今年度検討テーマ案

- 認知症官民協議会設立式（平成31年4月22日）後に行った、協議会参加団体への「認知症バリアフリーWG『検討テーマ』に関するアンケート」の回答結果等を踏まえ、業界の枠を超えた議論（初年度から多くの団体に関わることができる）が可能となるよう、今年度の検討テーマとして「接遇」「契約」の2テーマを設定してはどうか。 ■ 参考

WGテーマ1
接 遇

WGテーマ2
契 約

（「接遇」の設定理由）

- 「認知症バリアフリー社会」（認知症施策推進大綱）の実現のために、認知症の方の日々の生活場面等（買い物や交通機関の利用等）におけるテーマ設定が必要であり、協議会参加団体に共通する課題として「接遇（各団体の想定場面において、どう認知症の方と接していくか。心のバリアフリー化をどう進めていくか）」をテーマ案として挙げたものである。

（「契約」の設定理由）

- 認知症の方の生活を守るためには、支援者等側の論理だけではなく、本人が能動的に社会と関わりをもてるようにする各種取組を後押ししていく必要がある。一方で、認知機能の低下に伴い、日々の買い物ひとつにしても、財産管理等をはじめとする各種契約行為に支障を来していく懸念があり、協議会参加団体がそれぞれの場面において、認知症の方と「契約」を行う場合において、どのような留意が必要であるかをテーマ案として挙げたものである。

認知症バリアフリーWG「検討テーマ」に関するアンケートに寄せられたテーマ案

暮

- 認知症の人の社会参加支援
- 認知症の人が取り組みやすい活動の開発と提案
- (認知症の人が気軽に集える)“多世代交流型の公園”
- 認知症の人が生活しやすくなる支援機器の提案
- 社会生活分野:「金融」「交通」「買い物」「図書館」など
- 認知症の人の外出支援(無人駅対策、現地の音声案内等)
- 買い物支援(現金支払い機能を残す)
- 認知症の方のトイレのお困りごと

災

- 大規模災害時等での認知症高齢者及び介護者の支援体制確保

介護

- 認知症の進行度別の細やかな取り組み

- AI搭載機器等、ICT機器を使った在宅介護の高度IT化
- AIによる日常生活支援やロボットによる介護支援の早期展開
- 介護サービス基準の緩和
(認知症の症状と提供される介護保険サービスは適切か?)

予防

- 認知症の早期発見あるいは発症のリスクとなる病気を発見することによる認知症のリスク低減

- 認知症の予防活動の進め方を示す小冊子【パンフレット】の作成

教

- 認知症にやさしい社会を作るための市民の教育・啓発活動
- 国民への「認知症社会」教育の普及促進。市町村全体で認知症を支えるまちづくり。
(官・民・住が一体となった認知症高齢者検索システムの構築など)

WGテーマ1
接 遇

働

- 「働きたい」を支える他職種・他業種協働プラットフォーム構築。市町村設置。
- 認知症の方の働く環境
- 認知症の人の生活保障
- 若年性認知症者世帯の配偶者や扶養家族の経済的・精神的支援の充実

財

- 認知症の方が保有する財産の有効活用
- 消費者被害対策
- 認知症確定診断時もしくは後に後見人などの選任や認知症独居高齢者の住居や財産【銀行口座などを含む】等の管理と終活問題について
- 認知症の方もしくは認知症疑いの方が起こした【車両を含む】事故や傷害などの損害に対する本人及びその家族が負う可能性がある賠償について

法的支援的

- 日常生活に必要な交通、金融、通信・IT等各業界に対する法的支援体制の充実
(認知症高齢者が安心して暮らすことができるような支援体制を構築していく中で、法律専門職もメンバーの一員として入ることを検討)
- (認知症バリアフリーを検討するに当たっては)
- 認知症高齢者の権利擁護の視点からの検討

家族

- 介護家族自身の生活を守る。「介護家族のつどい」「認知症カフェ」「認知症本人のつどい」などの整理検討

他

- 【人体への侵襲などを考慮したうえで】
○OICチップ等による身元や所在の把握の全国統一モデルの開発

WGテーマ2
契 約